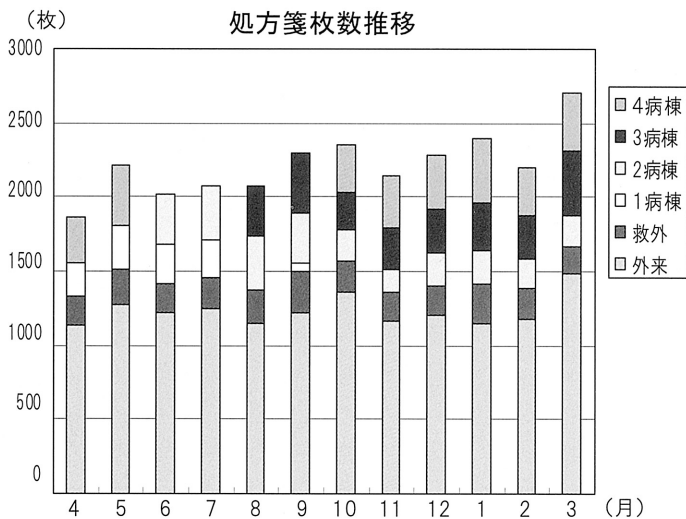


2003年度の薬局のスタッフは、薬剤師4名（4－9月は3名）、薬局事務職員1名の計5名であった。

薬局の業務は、調剤を中心とした薬局内の業務と、入院患者の服薬指導を中心とした病棟業務（薬剤管理指導業務）に大別される。本年度は外来診療体制・病床数に変動が多く、処方箋枚数の月別推移では、病床数の増加にしたがって、以下のとおり増加傾向であった。このような中、少人数スタッフによる業務体制の早期確立が、開院初年度の目標であった。



① 外来処方患者の待ち時間短縮と精度向上

2003年8月より外来の医事オーダーシステムと薬局内の調剤支援システムを連動させ、薬袋印字・薬剤情報提供書の自動発行、外来薬歴管理を開始した。このシステムでは、薬袋印字専用機を使用せず汎用レーザープリンタを使用し、また薬袋を汎用紙と市販のチャック付きポリ袋を利用することでコストダウンをはかった。システム導入により業務の効率化、服薬指導内容の充実、調剤業務の精度が向上した。2月の外来待ち時間調査では、医事－薬局の待ち時間は約3分であった。

また、医事との連動は薬剤師が医事入力をチェックすることにもなり、外来処方薬に関する医事の請求ミスや請求モレは、ほぼ防ぐことが出来た。

② 薬剤管理指導業務の開始

2003年9月より薬剤管理指導業務の届出書類準備を行い、11月に全病棟を対象に届出が受理され、同月より業務を開始した。服薬指導の他に、入院患者全員の薬歴作成、指導記録の作成等の記録業務が大幅に増大した。これには外来のコンピュータ化とスタッフ増員(10月より1名増員)で対応した。3月には全病棟で56件算定した。12月からは糖尿病教育入院が開始され、薬物療法の講義を週1回木曜日に1時間担当し

た。今後は記録の効率化も検討しながら、スタッフへの医薬品情報提供なども充実させていきたい。

③ 医薬品の供給・管理体制の確立

・熊本病院との連携

熊本病院と共通の在庫管理システムを4月より導入した。連携をとることで適正在庫の管理を行い、また共同購入によるコスト削減を行った。問屋の配達日が週2回であるため発注管理が難しいが、在庫切れを最小限にし、かつデッドストック防止に努めた。

・病棟・各部署における薬品管理

部署毎の必要度に応じて年2～6回の棚卸しを行った。また、病棟開設時にあわせて、リスクマネジメントやコスト意識の観点を重視して、定数配置棚の整備を行った。

・デッドストックの削減

医局会にて毎月報告を行い、医師への処方薬の情報提供に努めた。

・薬事委員会への関与

薬事委員会の体制・採用のまでのシステムづくりを、委員会を通じて行った。また、在庫管理システムから採用薬・削除薬の審議資料を提供し、採用に関しては一増一減を心がけた。

④ 薬剤師の能力向上

限られたスタッフ数でオールマイティな業務・知識が要求されるので、それらを念頭においたテーマを心がけ、部内担当持ち回りで定期的に勉強会を開催した。

・「火曜夕方勉強会」 年13回開催

疾患と薬物療法の理解、業務を発展させるための知識の習得などを目的とする。

・「水曜朝勉強会」 年15回開催

薬剤の基礎知識を深めることを目的とする。

常に化する状況下で業務改善を行いながら、各人のアンテナをフル稼働させ、医療の質確保に努めた。今後もスタッフの共通認識のもとに、病院・薬局の方向性を見据えて新たな目標に取り組んでいきたい。